

2 東益津地域まちづくり構想

2-1 地域の現状

■概況

本地域は、焼津市の北部に位置し、面積は約 1,226ha で市域の約 17%を占めています。昭和 30 年に東益津村が焼津市に編入され、今の地域になっています。

地域内には高草山があり、志太平野から牧之原台地まで一望でき、また地域の東部には浜当目海岸などの海岸線もあるため、風光明媚かつ良好な自然環境に恵まれた地域です。

また、東海道新幹線、東海道本線、東名高速道路や国道 150 号などが走っており、焼津市の北の玄関口となっています。

東益津地域 位置図



■人口の推移

平成 27 年における本地域の人口は 10,146 人、世帯数は 3,860 世帯となっており、人口、世帯数ともに経年的に減少傾向にあります。

また、年齢 3 区分別人口割合の経年的な変化は、15 歳未満及び 15 歳～65 歳未満が減少傾向に、65 歳以上が増加傾向にあり、少子高齢化の傾向が年々強まっています。特に、平成 27 年における 65 歳以上人口の割合は 33.2%で、高齢化率が最も高い地域となっています。

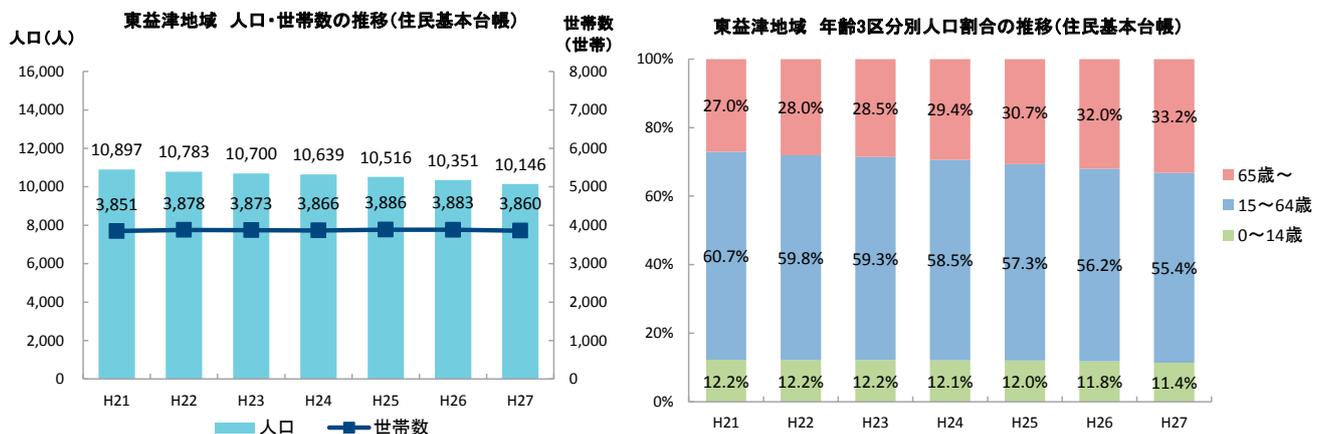


図. 東益津地域における人口・世帯数及び年齢 3 区分別人口割合の推移
(住民基本台帳より：H24 までは日本人のみ、H25 以降は外国人を含む)

2-2 地域の将来像

東益津地域の将来像

- 焼津駅や焼津ICまで移動しやすい、便利なまち
- 海・山・川や歴史文化など、多彩な地域資源に親しみ、楽しむことができるまち
- 安全・安心で地域コミュニティが活発な、誰もが魅力を感じる住みやすいまち

2-3 地域のまちづくりの課題

◎地域住民や観光客が交流する空間と機会の創出

- ・ 既存集落地では、人口の減少と少子・高齢化が進行しており、地域コミュニティの維持と地域の活性化が必要です。
- ・ 高齢者の増加に対応するため、公共交通などによる日常生活を支える移動手段の充実を図る必要があります。また、子どもから高齢者まで、誰もが安全・安心に通行できる歩行者空間を創出する必要があります。
- ・ 市街化調整区域の大部分を占める山地や田畑を保全するとともに、これらに調和した住環境や工業環境を創出する必要があります。

◎緑豊かな自然資源と個性ある歴史文化資源の活用

- ・ 高草山周辺の緑豊かな自然環境や良好な眺望景観、また数多く残る文化財等を観光資源として効果的に活用する必要があります。
- ・ 旧東海道沿いに石垣と附属屋が階段状に連なり、独特の景観を創り出している花沢重要伝統的建造物群保存地区は、本市の歴史・文化を次代に伝える重要な資産として保全する必要があります。
- ・ 浜当目海岸など、富士山を望むことができる良好な眺望点を保全するとともに、まちづくりに有効に活用する必要があります。

◎地域の活力向上と、地震・津波・大雨などの自然災害への備えの充実

- ・ 地域活動の中心地である東益津公民館を有効活用したまちづくりを進める必要があります。
- ・ 一部に住宅と工場の混在がみられる浜当目海岸周辺においては、地震による津波等に対して避難地や避難路の整備により安全性を確保するなど、災害に強いまちづくりを進める必要があります。
- ・ 高草山の麓一帯では、大雨時に水害が発生しているほか、崩壊のおそれがある急傾斜地が多く存在しているため、総合的な治水対策や、急傾斜地対策などの災害防止対策を進める必要があります。
- ・ 過去の自然災害の発生状況や教訓をもとに、地震や津波に対する危険性や正しい知識を習得するなど、地域住民の防災意識の向上を図る必要があります。

2-4 地域のまちづくり方針

① 個性的な地域産業と豊かな自然環境を活用した、多様な交流を創出する まちづくり

- ・市街化調整区域の既存集落地や住宅団地においては、周辺の自然環境との調和・共生に留意しながら、住環境の維持・向上を図るとともに、安心して子どもを産み育てられ、高齢者が地域において安全・安心で快適な生活を営むことができる環境づくりに努めます。また、高齢者をはじめとする地域住民の日常の足を確保するため、利用需要に応じ、デマンドタクシー等の公共交通ネットワークを検討します。



既存集落地

- ・東海道新幹線と東海道本線の間位置する工業地や、策牛地区の環境共生型工業地（P19 参照）においては、周辺環境と調和した工業地としての機能を維持し、良好な生産機能の強化を図ります。また、茶畑やみかん畑などに見られる耕作放棄地の再生利用や、地域農産物の販売などの地域住民主体の取組を支援し、地域コミュニティの活性化と農業環境の保全を図ります。
- ・地域住民の生活交通や観光客の観光交通を支えるため、県道静岡焼津線、県道焼津岡部線などの幹線道路の整備・維持管理を促進するとともに、ユニバーサルデザインを取り入れた、子どもから高齢者まで誰もが、安全・安心・快適に通行できる空間の創出に努めます。

② 高草山や花沢の里など、地域固有の資源を活かした景観まちづくり

- ・高草山のハイキングコースなど、自然資源などを活かした、観光客も一緒になって楽しめる魅力あるまちづくりを進めます。
- ・重要伝統的建造物群保存地区に指定されている花沢の里など、地域固有の歴史・伝統文化を次代に引き継いでいくため、歴史や技術等を保存する取組を行うとともに継承する仕組みの構築に努めます。
- ・高草山、大崩海岸、朝比奈川、浜当目海岸の自然や、林叟院、法華寺をはじめとする神社仏閣など、地域ならではの自然資源や歴史文化資源を守り、活かすため、地域独自の景観まちづくりを推進します。



花沢の里
(重要伝統的建造物群保存地区)

③東益津公民館などを活用した地域住民主体の活力あるまちづくりと、 多様な自然特性を踏まえた防災・減災まちづくり

- ・ 東益津公民館などの地域活動の中心地にある既存施設を有効活用して、子どもから高齢者まで誰もが集い憩うことができ、レクリエーション活動を楽しめる環境づくりに努めるとともに、地域住民主体の活力あるまちづくりを進めます。また、平時から自主防災会との連携を図りながら、災害時には地域の防災拠点として機能を果たせるよう努めます。



東益津公民館

- ・ 台風や集中豪雨などに起因する水害の防止・軽減を図るため、瀬戸川や朝比奈川などでは、河川の特性を踏まえた整備と維持管理を進めるとともに、総合的な治水対策を推進します。
- ・ 高草山一帯の土砂災害等のおそれがある区域は、防災施設の整備を促進するとともに避難体制の充実・強化を図ります。
- ・ 津波から安全かつ迅速に避難することができるよう、所有者や管理者の意向に配慮しながら、津波避難ビルの指定・普及に努めます。
- ・ 地域の子どもから高齢者まで誰もが、普及・啓発活動や防災教育等を通じて、防災意識を高揚させるとともに、災害ボランティア活動への参画を促進し、地域における防災活動を積極的に支援します。



〈東益津地域 まちづくり方針図〉

凡	例		
	地域界		市役所(本庁舎・別庁舎)
	地域活動の中心地(最重要)		幼稚園
	地域活動の中心地		保育所
	地域の骨格軸		小学校
	水・緑の軸		中学校
	鉄道		高校・専門学校・大学
	高速道路		文化施設
	主な幹線道路		公民館
	前市拠点		地区集会所
	生活交流拠点		体育施設
	産業・観光交流拠点		保健福祉施設
	市街化区域		医療施設 内科・小児科 産婦人科・整形外科
	自然環境保全・活用地		郵便局・金融機関
	環境共生型工業地		
	市街地環境整備検討地		
	新たな土地利用検討ゾーン		
	主な公園・緑地等		

